

# 北のとびら

vol. 110

平成28年11月

## 特集

北海道舞台塾公演「Sparrowwwwww」

構成・振付・演出

スズキ拓朗インタビュー

## この人に注目

彦素 由幸

アートの子カラを考える

韓国美術交流レポート

## 街歩きアート

伝説の名馬の里に、  
懐かしいレコードの音を  
求めて

[新冠町]

## エッセイ

穂村 弘

表紙作家の紹介

国松 希根太



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION



——舞台上に興味を持ったのは高校3年生の春だそうですね。

地元の新潟県上越市にきた「ふるさときゃらばん」という劇団の公演を観たのがきっかけです。当時は保育士を目指していて、教育的演劇と聞いて関心を持ったのですが、ビール箱を並べた舞台に生演奏、歌、踊り、日常的な空間に生まれた異世界に感動しました。そこで、進学先を桐朋学園芸術短期大学演劇専攻に変更。専門課程を含め4年間、演劇とダンスの基礎などを学びました。

在学時、所属していた劇団の一つでダンスが必要となり、一番働ける僕が担当に。以降、身体表現に興味を持つようになって、2007年には大学祭のためにダンスユニットを立ち上げました。それが現在も活動を続けているカンパニー「CHAIROIPLIN」(チャイロイプリン)です。

卒業後は蜷川幸雄さんが主宰する「さいたまネクスト・シアター」に一年間在籍。この頃は、演劇を学びつつもドイツの振付家ピナ・バウシュの舞台を観た影響で「やりた

いのはこっちだった!ダンサーになるんだ!」という意識が強くなっていました。その後、東野祥子さん、山田うんさん、矢内原美邦さんなどの作品や、神楽坂セッションハウスの企画に参加させていただき、ダンサーとしての活動の幅を広げていきました。

——2011年に、ソロ作品『言ひたりきたり』が横浜DANCE COLLECTION EX新人振付家部門で奨励賞を受賞。また、2012年には近藤良平さんが主宰する人気ダンスカンパニー「コンドルズ」のメンバーとなっています。

僕が創った初期のソロ作品は、一人芝居的なものでした。『言ひたりきたり』は、演劇的なものをダンスに転換する方法を学んで創った初めての作品です。

コンドルズとの出会いは失恋がきっかけ(笑)。恋人との旅行用に貯めたお金で一番高いワークショッップを受けようと探したら、それがコンドルズの京都台宿ワークショッップだったんです。実はそのとき初めてコンド

特集/北海道舞台塾公演「Sparrowwwwww」

構成・振付・演出 スズキ拓朗インタビュー

僕の中に演劇とダンスの境界はない。  
題材をおもちゃに総合芸術を創りたい。

ダンス、演劇、音楽、映像、多様な表現を融合させて舞台芸術の新たな可能性をみせてくれる振付家・演出家でダンサーのスズキ拓朗さん。奇想天外な発想の中に普遍的テーマを取り込みつつ、エンターテインメント性の高い独自の舞台世界を創り続けています。2017年3月に札幌で上演される作品「Sparrowwwwww」のオーディションのために来道したスズキさんに、これまでの活動と作品創りについてうかがいました。

スズキ拓朗  
振付家・演出家・ダンサー

ダンスカンパニー「CHAIROIPLIN」(チャイロイプリン)主宰。ダンスカンパニー「コンドルズ」所属。横浜Dance Collection EX奨励賞、第46回舞踊批評家協会新人賞。第9回日本ダンスフォーラム賞。トヨタコログラフィアワードファイナリスト。監督/雨宮慶太、劇場版「牙狼」振付。フィリップ・ドックフレ客演。若手演出家コンクール2013最優秀賞、第3回世田谷区芸術アワード飛翔受賞。多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科非常勤講師、国際文化学園非常勤講師。2016年度公益財団法人セゾン文化財団ジュニアフェロー。平成27年度東アジア文化交流使。

<http://www.chairoiplin.net>  
<http://www.condors.jp>

ルズを知りました。参加後、リーダーの近藤良平さんに企画作品『立体絵本』に誘ってもらい、翌年から正式にメンバーとして踊っています。

演劇もダンスも、若者は劇団やカンパニーといったグループでの活動が続けることが苦手です。現代の経済事情ではそれが難しいというのもある。けれど続いていく関係だからこそできることがあって、僕はそのほうが楽しいと思っています。コンドルズは集団の中に自然と役割があり、目的を共有していて、それぞれがやり過ぎずやらなさ過ぎず、ちよんちよんというところがわかっている。継続する集団のあり方を学ばせてもらっています。

——振付家・ダンサーとしての活動にとどまらず、主宰するチャイロイプリンとユニット「tamagopLIN」（タマゴプリン）の作品などで構成・演出を手がけてきました。

タマゴプリンは2010年、演劇を創っていた「パフォーマンス集団・たまご」とチャイロイプリンが手を組んで生まれたユニットです。2011年に発表した『さいあい

くシエイクスピア・レシピ』は、第3回世田谷区芸術アワード飛翔をはじめ多くの賞を受賞、何度も再演しています。擬人化した野菜たちが登場して、いじめや家族の問題で悩む少女と一緒にシエイクスピアの戯曲で愛を学んでいくという、滑稽で温かい作品です。

昨年、世田谷パブリックシアターの企画で構成・振付・演出を担当させていただき、日本最古の漫画である鳥獣戯画をモチーフに、おどるマンガ『鳥獣戯画』という作品を創りました。『さいあいく』以来、久しぶりに物語世界全体を自分で構築した作品になります。僕は作家とは名乗りませんが、数年おきにであればこのような創作もできそうだな、やっていきたいな、と考えています。

チャイロイプリンでは、戯曲を作品化する「踊る戯曲」をはじめ、「踊る童話」「踊る小説」などのシリーズを展開しています。安部公房の『友達』を作品化した『FRIEND〜踊る戯曲1〜』では、若手演出家コンクール2013の最優秀賞を受賞しました。来年1月には、江戸川乱歩の『屋根裏の散歩者』を



「Sparrowwwww」のオーディションには28名が参加（2016年10月22日・23日に実施）



特集／北海道舞台塾公演「Sparrowwwww」

構成・振付・演出 スズキ拓朗インタビュー

『トヨタ コレオグラフィア アワード 2014』“ネクステージ”（最終審査会）ファイナリスト作品 『Sparrowwwww』  
会場：世田谷パブリックシアター 構成・振付・演出 スズキ 拓朗

ベースにした『peeep〜踊る小説2〜』を上演予定です。

僕は作品を創るとき、戯曲に書いてある言葉にはとらわれませんが、言葉は便利だけれど、伝わるように伝わらないこともある。それよりも身体的に描いて表現するほうが伝わるものがあると思うんです。

僕にとつて戯曲や小説は、いわば遊び道具として与えられたもの。それをどう自分流のおもちゃにしていくかを考え、身体化していきます。

僕は演劇をリスペクトしていますが、演劇だけではつまらない。ダンスもそれだけではつまらない。また、これは僕の課題でもあります。純粋なダンス作品はあまり長く創れない、せいぜい30分が限界です。チケット代と楽しんだ時間の対価を考えれば90分は上演したいですが、そうするとやはりピナ・バウシュやフィリップ・ドュクフレのように、ドラマやサーカスの要素を取り入れ、総合芸術として創り上げる方向になる。僕がやりたいのはまさにそれで、エンターテインメント性の高い総合芸術を目指しています。

——3月に札幌で上演される「Sparrowwwww」は、昔話『したきりスズメ』が題材ですね。

『したきりスズメ』は誰もが知っている日本の昔話。登場人物の言動や心情を、ダンスや歌、映像、言葉遊びなどで表現し、物語を紡いでいきたいと思っています。テーマは物語の鍵となる葛籠。中身の見えな箱は想像力をかき立てますよね。社会的な作品を指向してはいませんが、どっちの箱を選ぶ？というのはどんな問題にも通じる普遍性がある。そこをテーマにしたいと考えています。

#### 公演情報

北海道舞台塾公演

「Sparrowwwww」

日本の昔話／『したきりスズメより』

日時 平成29年3月17日(金)19:00 開演  
3月18日(土)14:00 開演  
(開場は各回開演の30分前)

会場 北海道立道民活動センター  
「かでの2・7」かでのホール  
(札幌市中央区北2条西7丁目)

入場料 一般前売1,500円(全席自由)  
当日2,000円

# 彦素 由幸

Yoshiyuki Hikoso



c. 劇団千年王国「狼王ロボ」  
(2013年2月、札幌演劇シーズン  
2013-冬 参加作品)



b. 札幌座第42回公演「西線11条のARIA」  
(2014年2月、札幌演劇シーズン2014-冬 参加作品)

a,b 撮影：高橋克己



a. 日本の演劇人を育てるプロジェクト  
新進演劇人育成公演  
日本劇団協議会「鳥」  
(2016年7月)

し、急遽依頼された代役を見事に演じたことから、信頼できる役者として認知されて多くの出演依頼が来るようになりました。近年は札幌座『西線11条のARIA』や櫻井幸絵・平原慎太郎演出の『地獄変』など、札幌の演劇シーンで注目を集める作品の主要な登場人物を演じる機会が増えています。

今年30歳。「舞台に出てないと役者としてダメになるので、出る数は減らしたくない。できれば死ぬまで演じ続けたい」。これまで通り、一つひとつの役との巡り合わせを大事に演じつつ、「札幌で演劇を続けていくために何が出来るかを考えていきたい」とのこと。これからの北海道の演劇を支える俳優の一人として期待を集めています。

■出演予定  
平成29年1月28日(土)～2月4日(土)  
劇団千年王国「狼王ロボ」  
(札幌演劇シーズン 2017-冬 参加作品)  
会場/北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのホール  
(札幌市中央区北2条西7丁目)  
問い合わせ/アクトコール株式会社 ☎011-868-5530

「作品の芯を掴むのがうまい役者」「どんな急場もしのいでくれる頼れる存在」。札幌の演劇関係者にそう評価されているのが、学生時代から演劇ひと筋にキャリアを重ねてきた俳優・彦素由幸さんです。

彦素さんは札幌市出身。北海道札幌東高等学校の演劇部で活動し、北星学園大学に進学してからは、劇作家・演出家・俳優のすがの公さんが立ち上げた演劇企画運営団体「札幌ハムプロジェクト」(以下、ハムプロ)に所属して10年間活動。昨年フリーランスとなりました。

演劇に関して多くのことをハムプロで学んできた彦素さん。特に、ワゴン車一台に舞台セットと役者に乗せて、一年間で全国47カ所での公演を行う旅公演への参加は、役者として得がたい経験だったといいます。「毎日、しかも違う都市のお客さんの前で演じる生活はなかなかできない」と彦素さん。会場は、居酒屋の片隅だったり、大ホールだったり。「受け入れてくれた人のためにも失敗はできない」という緊張感の中での経験が、俳優としての成長に繋がりました。

存在が広く演劇関係者に知られるようになったきっかけは、2012年に行われた劇団千年王国『狼王ロボ』の道内3都市ツアーへの参加。本番1週間前に主役が入院

## 芸術を愛する街 珍島 韓中日交流展の旅

日本画家 平向功一

2016年10月21日から27日まで、韓国の全羅南道西南部の「珍島(チンド)」において韓国・中国・日本の三方国による美術交流展が開催された。

珍島は韓国の南に位置し、天童よしみの「珍島物語」でも知られる「海割れ」で有名な観光地で、国内外から多くの観光客を集める地区である。何よりこの珍島は韓国唯一の民俗文化芸術特区に指定されており、芸術文化に大変理解のある街なのである。

この交流展は東洋画と書をテーマとした展覧会であり、昨年に続き2回目の開催である。珍島をはじめとする韓国の作家、中国の作家、そして東京、長野、北海道から集まった日本の作家の総勢33名による大きな展覧会であった。



展覧会開幕の様子

北海道からは団長の阿部典英氏のもと、招待作家として日本画分野より平向功一・石田真理子・岡恵子、書道分野から加藤正叙が

参加した。展覧会の会場となったのは街の中心部にある沃山(オクサン)美術館であった。開会セレモニーでは日本の作家代表として阿部団長から本展覧会の意義や友好のメッセージが述べられ、テープカットのあと華やかに展覧会が始まった。会場には日本ではあまり見かけない表現の作品がたくさんあり、東洋画の豊かさや懐の広さに感嘆したのであった。

滞在中は、豊臣秀吉の軍と朝鮮水軍との間に起こった鳴梁渡海戦を記念した珍島タワーや、南宋の大家であった許錬(ホリョン)が晩年に住んだ雲林山房、天然記念物に指定されている珍島犬を紹介する弘報館など、珍島の遺跡や名所などを案内していただき、珍島の歴史や文化に触れることができた。

韓国の地に一歩足を踏み入れてみれば、マスクミヤネット上に溢れる日韓のネガティブなイメージは無く、人はみんな親切で友好的でやさしい人ばかりであった。「国と国はいろいろあるけど、われわれ芸術を愛するものにはそんなことは関係ない」と熱く語ってくれた珍島の友。乾杯の際に誰かが大きな声で叫んだ「コスモポリタン」の言葉が今でも忘れられない。

この芸術を愛する街 珍島からアジアへ、そして世界へ。芸術を通じた友好の輪が広がることを心から願うばかりである。



珍島郡守である李東鎮氏に作品を解説する石田さん



鳴梁海戦を記念して建てられた珍島タワーにて

40年以上続く、まちのジャズバンド

## 新冠軽音楽愛好会 ブルーホース

アメリカのジャズミュージシャン、グレン・ミラーを愛する4名が結成した「ブルーホース」は、活動歴40年以上の老舗バンド。メンバーを替えながら、現在12名が在籍しています。5代目バンドマスターの西條成一さんは、結成3年目から参加している年長者。高校生から社会人までのメンバーをまとめあげています。

町内のイベントでは、招いたプロと一緒に舞台上に立つことも。また、プロからジャズを学んで子どもたちへの指導にも役立てており、「私たちはレ・コード館をソフト面で盛り上げる役目を担っています」と西條さんは語ります。

子どもたちへの指導や楽器体験講座ではマンツーマンで教え、自分たちの練習は週に一度だけ。それでも「メンバーはイベントに自主的に関わり、調和のとれたバンドになって嬉しい」と西條さん。演奏活動と指導をこなしながら、バンドとしてさらに進化し続けています。



町内ジャズフェス前夜祭でのパフォーマンス

[music.geocities.jp/nibluehorse/](http://music.geocities.jp/nibluehorse/)

育て!子どもたちのジャズの芽

## レ・コード館 ジュニアジャズバンド

聴こえてきたのはジャズのスタンダード・ナンバー「Take the 'A' Train (A列車で行こう)」を演奏するのは「レ・コード館ジュニアジャズバンド (RJB)」です。2004年に、楽器体験講座をきっかけに結成され、現在は小学3年~中学2年生が所属しています。

普段指導するのは、地元のバンド「ブルーホース」のメンバーで小学校教師の加渡久穂さん。ほかに、RJBの立ち上げに関わった音楽監督の若林雅久さんや、プロのミュージシャンも指導にやってきます。RJBのレベルは高く、のちにプロになった元メンバーもいますが、活動の目的は単なるジャズ教育ではなく、社会教育の一環という位置づけです。

RJBの活動は、いつもそばに音楽があることの楽しさと喜びの芽を育て続けています。



11月の定期演奏会に向けて猛練習中

[music.geocities.jp/nibluehorse/rjb/](http://music.geocities.jp/nibluehorse/rjb/)



日高の中央に位置し、太平洋に面する新冠町は、軽種馬産業が盛んです。

「サラブレッド銀座」と呼ばれる道道沿いには競走馬の牧場が続き、観光名所となっています。古くはハイセイコー、そしてオグリキャップといった大スターも、新冠町で第二の人生を過ごしました。近年は、レコードと音楽によるまちづくりが行われ、幻想的な美術館も話題を集めています。

街歩きアート

伝説の名馬の里に、

懐かしいレコードの音を求めて

## 【新冠町】

音楽とレコードを愛する人の聖地

## 新冠町レ・コード館

円形の塔と建物が目を引く「レ・コード館」は、98万枚ものアナログレコードを収蔵し、そのうち40万枚を試聴できるというユニークな施設です。館がオープンした1997年から現在まで約20年にわたり、全国からレコードの寄贈を受け入れています。

入ってすぐの試聴コーナー(無料)には、クラシックやジャズ、洋楽、ポップスに歌謡曲など、幅広いジャンルのレコードがずらり。また、リスニングブースや、特注の巨大スピーカーを内蔵したレコードホールは有料で利用可能。マニアも納得の音質で楽しめます。

レコードの収集や試聴のほか、歴史展示にも力を入れており、併設するミュージアムには貴重な資料が揃います。1878年にエジソンが開発した蓄音機「ティンフォイル」は、錫箔(すずはく)を録音部のシリンダーに用いたもの。世界に5台しか残っておらず、そのうちの1台を見ることができます。1887年にベルが開発した「グラフォフォン1号機」は、蜜蝋(ロウ)を用いたもので、世界に3台現存するうちの1台を展示。これらは、日本ではここでしか本物を見られないという驚きのコレクションです。

1800年代~1900年代初頭の蓄音機でSP盤を聴けるコーナーもあります。1935年のイギリス製蓄音機の大きなホーンは一見重そうですが、実は紙製。紙は雑音を軽減する働きがあるとか。当時のように竹やサポテンのレコード針が奏でる音は、しっとりとした柔らかなで、懐かしささえ感じます。

そのほか、町でのサマーライブが縁で寄贈された南こうせつ氏のギターや、名DJとして知られた糸居五郎氏の遺品も展示。これからも音楽、そしてレコードを愛する人々の記憶が、音の溝のように刻まれていきます。



●新冠郡新冠町中央町1-4  
☎0146-45-7833  
開館時間 10:00~17:00 (レ・コードホールの貸切は17:00~)  
休館日 月曜(祝日の場合は翌日休)、祝日の翌日、年末年始  
入場料(見学コース) 一般300円、高校生200円、小中学生100円、乳幼児無料  
※レ・コードホール貸切は1時間3700円  
[www.niikappu.jp/kurashi/kyoiku/bunka-sports/record/](http://www.niikappu.jp/kurashi/kyoiku/bunka-sports/record/)



貴重なレコード黎明期の機器を多数展示



レ・コードホールでは月1回レコードコンサートを実施



竹針は摩耗しやすいため、途中で頻繁に付け替えていたとか

過去と未来が交差する幻想美術

## 太陽の森 デイマシオ美術館

圧倒的なデッサン力で幻想世界を描くフランスの画家、ジェラルド・ディマシオ。彼の200点にも及ぶ作品を展示した美術館が、森の奥に佇んでいます。周辺の自然豊かな環境は、観る者を現実から遠ざけ、想像力をよりかき立てます。描かれた瞳のない人物や画面に浮かんだ破片、セピアの色彩は、ルネッサンス期の彫刻や壁画のよう。同時に、未来のイメージが空間いっぱいに広がり、遥かなる宇宙を旅しているような、神秘的な世界を体感できます。

●新冠郡新冠町字太陽204-5 ☎0146-45-3312  
開館時間 10:00~16:00 開館期間 4月1日~11月5日  
休館日 火曜(祝日の場合は開館)、冬期  
入館料 一般1100円、高大生900円、中学生300円、小学生以下無料

[www.dimaccio-museum.jp](http://www.dimaccio-museum.jp)



9m×27mの巨大絵画。光と音の演出も壮大



## Column

### 名馬たちの勇姿を、後世へ 優駿のまち

競馬界で「芦毛の怪物」とも呼ばれたオグリキャップは、引退後に種牡馬(しゅぼば)として、町内の施設「優駿スタリオンステーション」で20年近くを過ごしました。新冠町はオグリキャップの第二の故郷と言えます。敷地内にある「優駿記念館」では現役時代の馬具やファンとの思い出の品を中心に展示。馬服や優勝肩掛けには、たくさんの毛がついたままで、まだまだそばで生きているかのようです。全国から届いた千羽鶴やファンレターは、生涯アイドルとして愛された証です。



屋外のオグリキャップ像

屋外の「優駿メモリアルパーク」には、ファンの募金で建てられた等身大のオグリキャップ像や、ナリタブライアンなどの、ここで余生を過ごした名馬たちの墓碑が並び、今も参拝者が絶えません。偉大な馬たちの記憶は、新冠町から後世に伝えられていくことでしょ。

優駿メモリアルパーク・優駿記念館

●新冠郡新冠町朝日267-3 ☎0146-47-3966 (株式会社優駿)  
開館時間 10:00~16:00 開館期間 4月上旬~11月上旬  
休館日 無休(冬期休館)  
入場料・入館料 無料  
[www.yushun-company.com/oguricap/](http://www.yushun-company.com/oguricap/)



馬蹄形の館内にオグリキャップの遺品を展示

## 表紙作家の紹介



HORIZON  
Photo: Kai Takihara

### 国松 希根太 彫刻家 Kineta Kunimatsu

1977年札幌市生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻科を卒業後、2002年より飛生アートコミュニティ（北海道白老町）を拠点に制作活動を行なう。近年は、地平線や水平線、山脈といった風景の中に存在する輪郭（境界）を題材に彫刻や絵画、インスタレーションなどの作品を制作している。主に個展、グループ展などで作品を発表し、スパイラルガーデン（東京）での個展"material"や、サヴォア邸（ボワシー、フランス）でのグループ展"\* folding cosmos VILLA SAVOYE"など、国内外で発表活動を続けている。また、飛生アートコミュニティの活動として、アート関連のイベントや展覧会の企画にも多数関わる。

#### [個展]

- 2016年「TIMESCAPE」(グランビスタキャリアー サッポロ/札幌)
- 2015年「第24回道銀芸術文化奨励賞受賞記念 国松希根太展」(らいらっく・ぎやらりい/札幌)
- 2014年「FLEXFORM × Kineta Kunimatsu Art Exhibition」(FLEXFORM TOKYO/東京)
- 2014年「国松 希根太展」(t.gallery/東京)
- 2014年「飛生でみつめる景色」(飛生アートコミュニティ/白老)
- 2014年「BEYOND THE HORIZON」(Gallery 創/札幌)
- 2014年「material」(スパイラルガーデン/東京)
- 2012年「KINETA KUNIMATSU EXHIBITION 2002-2012」(飛生アートコミュニティ/白老)
- 2012年「Kineta Kunimatsu Exhibition」(STV北2条ビル/札幌)
- 2011年「HORIZON PART」(茶廊法邑/札幌)
- 2010年「HORIZON PART」(弘文堂画廊/帯広)
- 2010年「HORIZON PART」(六花亭福住店/札幌)
- 2009年「HORIZON」(Gallery 創/札幌)
- 2008年「RAINY DAYS」(Gallery Benten 17/香港)
- 2006年「ALLURE」(カフェ エスキス/札幌)
- 2006年「Kineta Kunimatsu Exhibition」(SOSO/札幌)
- 2004年「Something In The Water」(カフェ エスキス/札幌)
- 2004年「Kineta Kunimatsu Exhibition」(コンチネンタルギャラリー/札幌)

#### [主なグループ展]

- 2016年「ともにいること ともにあること」(北海道近代美術館/札幌)
- 2015年「\* folding cosmos VILLA SAVOYE」(Villa Savoye/ボワシー、フランス)
- 2015年「\* folding cosmos HELSINKI」(Annantalo Arts Center/ヘルシンキ、フィンランド)
- 2014年「ObjectMatters:概念と素材をめぐる日本の現代表現」(gallery VOICE/多治見)
- 2014年「Ezotic Caravan -国の北から-」(東京都美術館/東京)
- 2013年「札幌美術展 アクアライン」(札幌芸術の森美術館/札幌)
- 2013年「\* folding cosmos 2013」(鈴木大拙館/金沢)
- 2013年「\* folding cosmos 2013」(モエレ沼公園ガラスのピラミッド/札幌)
- 2013年「\* folding cosmos 2013」(ダーレム・ミュージアムセンター/ベルリン、ドイツ)
- 2009年「雪国の華 -N40°以北の日本の作家達-」(M50 building No.18/上海、中国)
- 2008年「WONDERLAND. art for all」(Gallery Benten 17/香港)
- 2008年「REWIND」(Gallery Benten 17/香港)
- 2008年「Hong Kong ArtWalk 2008」(Gallery Benten 17/香港)

#### ◎北海道文化財団アトスペース企画展 vol.31

国松希根太 個展「時の残像」  
会 期：平成28年11月30日(水)～平成29年2月28日(火)  
9:00～17:00  
休館日：土・日・祝日  
※都合により臨時休館場合があります。  
会 場：北海道文化財団アトスペース  
(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)  
入場料：無料



TIMESCAPE



絵/岡理恵子

## 初めての恋人

生まれて初めて恋人ができたのは、十九歳の時だった。私は北海道大学の一年生で、相手のKさんも同じ。ただ、他の大学をやめて再受験してきた彼女は二つ年上だった。その部屋を初めて訪ねた時、Kさんがワインを飲みながら語学の勉強を始めていてびっくりした。ドイツワインとドイツ語、その振る舞いが、なんだか、とてもなく大人に思えて圧倒された。今なら二つくらい年齢差はないようなものだが、あの頃の十九歳と二十一歳という違いは大きかった。年上の女性との恋愛は、私に背伸びを強いた。いつも大人ぶって無理をしていたから、たまに爆発してしまう。あれは彼女が一人で映画を観に行った夜のこと。待っている間、私は心配でたまらなかつた。何故かという、映画館は暗いから。今考えると、馬鹿みたいな理由だけど大真面目だった。やがて上機嫌で帰ってきた彼女に私は文句を云った。それが元でちよつとした喧嘩になった。そして、不安と独占欲の塊になった私は、彼女のベッドボードに、「一人で映画を

観に行くな！」とマジックで大書してしまったのだ。うーん、自分で書いても、ひくなあ。よく振られなかったものだ。Kさんは寛容な女性だった。その翌年、今度は私が東京の大学を再受験することになって、二人の関係は自然消滅してしまった。実は、この原稿を書くにあたって、インターネットで彼女のことを探してみた。地元で舞踏の先生になっていた。あの頃、獣医になるために北大に移ってきた、と云っていたけど、別の道に進んだんだなあ。変わったのは彼女だけではない。私も今では大人になって、人のベッドにマジックで文字を書いたりしなくなった。



穂村 弘  
(ほむら ひろし)  
歌手  
1962年札幌市生まれ。  
著書に『シンジケート』  
『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『世界音痴』『本当はちがうんだ日記』『によつ記』『絶叫委員会』『君がいない夜のごはん』『蚊がいる』他。2008年より日経新聞歌壇選者。『短歌の友人』で第19回伊藤整文学賞、「楽しい一日」で第44回短歌研究賞を受賞。近刊に絵本『X字架』(絵・宇野亜喜良)、エッセイ集『鳥肌が』、対談集『穂村弘の、こんなところで。』がある。

※次号のエッセイも穂村弘さんが担当します

## 財団事業インフォメーション（平成28年12月～平成29年3月）

### 若手芸術家発表事業

#### ●赤れんが音楽会 第2回

#### 室内アンサンブル レ・ポム・ポム Les pommes<sup>2</sup>

日時：平成28年12月18日（日）14：00開演（13：30開場）

会場：北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）

（札幌市中央区北3条西6丁目）

入場料：無料

問い合わせ：

（公財）北海道文化財団

☎011-272-0501



#### ●COTOHA 留寿都公演

日時：平成29年2月18日（土）18：30開演（18：00開場）

会場：留寿都村公民館（留寿都村字留寿都206番地1）

入場料：無料

問い合わせ：

留寿都村教育委員会

☎0136-46-3321



### アート体感教室事業

#### ●近藤良平ワークショップ成果発表会

日時：平成29年2月5日（日）17：00開演（16：30開場）

会場：恵庭市民会館（恵庭市新町10番地）

入場料：無料

問い合わせ：

恵庭市民会館

☎0123-33-3171



### まちの文化創造事業

#### ●旭川豆芝居2016

日時：平成29年3月4日（土）19：00開演（18：00開場）

3月5日（日）13：00開演（12：00開場）

会場：旭川市公会堂（旭川市常磐公園内）

入場料：一般1,000円 学生（高校生以下）800円

ぶんか小屋会員800円

ファミリーチケット（学生1名以上を含む4名まで）2,500円

問い合わせ：

まちなかぶんか小屋

☎0166-23-2801



### アートシアター鑑賞事業

#### ●あみゆぜ。のファミリーコンサート♪ ～遊園地へ行こう！～

#### ○長万部公演

日時：平成28年12月8日（木）10：35開演（10：10開場）

会場：長万部町立長万部小学校 体育館

（長万部町字長万部3番地5）

入場料：一般 1,000円

問い合わせ：

長万部町教育委員会

☎01377-2-2748



### 文化交流事業（招へい事業）

#### ●タティアナ・チヨロット作品公演（ダンス公演）

日時：平成29年1月6日（金）20：00開演

1月7日（土）①15：00開演 ②19：00開演

1月8日（日）15：00開演

（開場は各回開演の30分前）

会場：扇谷記念スタジオシアターZOO

（札幌市中央区南11条西1丁目3-17 ファミール中島公園地下1階）

入場料：一般 前売3,000円

当日3,500円

学生 前売2,500円

当日3,000円

問い合わせ：瞬project

☎080-4283-1446（橋本）



### 平成29年度 北海道文化財団 事業募集

#### ■募集対象事業

#### ○共催事業

・まちの文化創造事業

（シアター・ギャラリープログラム）

・アートシアター鑑賞事業

（道内・道外アーティストプログラム、ネットワーク型公演）

#### ○助成事業

・文化交流事業（発信・招へい交流）

#### ○主催事業

・アドバイザー派遣事業

・文化の宅配便事業

・若手芸術家発表事業

#### ■募集期間

平成28年12月上旬～平成29年1月27日（金）

#### ■募集要綱・申請方法

詳細は、当財団のホームページ（<http://haf.jp>）

「事業募集」でご案内しています。

#### ■問い合わせ

（公財）北海道文化財団 ☎011-272-0501